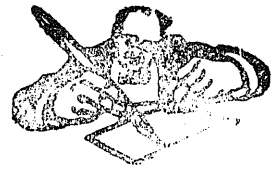

幼稚園と尋常一年との聯絡について（三）

東京府女師附屬主事　木下一雄

第三　課程內容の選擇

課程の選擇に關しては、(一)課程內容の一般(二)課程選擇上の原則について說明し、幼稚園と尋常一年との聯絡を考へる事とする。

(一)　課程內容の一般

今幼稚園尋常一年の課程を次ぎの五つに概括する。a生活に必須なる事項、例へば發表、讀方、算術、書方、綴方等、b發展的事項、例へば唱歌、遊戲、談話、自然研究、鑑賞等、c社會生活の事項、例へば家庭、鄕土、都市生活等、d身體の發達に關する事項、例へば營養、食物の價値、その他體育に關するもの等、e道德生活、性情陶冶に關する事項、例へば良習慣、作法、自治、公民生活等

a生活に必須なる事項　イ發表、言語による發表の機會は幼稚園及び尋常一年共に多いのである。玩具について話し、自分の製作したもの等について話すことは、幼兒をして語彙を多くし、話すべき事柄の

觀念の系列を整へしめ、話すことの自信を得しめるものである。ロ讀方、讀むことについては先きに述べたやうに、幼兒でも六歳に達すれば、その組織的な學習を初めることが出來るのである。ハ算術、數へることの經驗は、尋常一年と聯絡さるべき幼稚園の幼兒には、早くより準備することが出來るものである。かくして恐らく尋常一年の終頃に、十分なる算術的知識を持つであらう。ニ書方、既に述べた如く、七歳以下の幼兒は未だ精密な手の運動をなす能力を持つに至つて居ない。されば書方はたとひこれをなすもその進歩は容易でなく、黑板に白墨を以て練習させるか、或は軟かい鉛筆にて比較的大きな文字を書かせるに止まるものである。ホ綴方、この練習も幼兒には尙困難である。

b　發展的事項　遊戯、唱歌、談話、自然觀察、美の鑑賞等は既にこれまでの幼稚園の保育事項として實行されて來た所である。これらのものが幼兒の創造活動を促すと共に、幼兒の善き性情を涵養し、良習慣をつけ、趣味を養ふものであることは、何人も知る所である。

c　社會生活の事項、フレーベルは特に幼兒に社會生活を理解せしむる材料として、パン燒、大工、炭燒等の生活を選び、これを觀察せしめることに努めたものであつた。現代の幼稚園教育に於ても、この事は極めて重要視されて居る。幼兒等は屢デパートメントストアや停車場や官廳等を參觀に行く。而して幼稚園に歸つた後で幼兒にその觀察した所を發表させるのである。或はこれらの社會生活を遊戯に於て模倣させることもある。これらの事は尋常一年の生活にあつても極めて重要なることで、更にそれが

擴張せられることを要する。また觀察の方面は獨り社會實生活の事項に限らず、自然研究にも向けられねばならぬ。野菜の成長を見、鷄が雛を育てるのを觀察しても、その間に社會生活上の食料問題を理解せしむることが出來るのである。

d　社會生活の研究よりして進んで幼兒身體の健全なる發達といふことが考へられねばならぬ。幼兒の福祉のために健康上の知識、良習慣等の訓練がこゝに注意されるのである。

e　道德生活性情陶冶に關する事項　課程の內容として道德的訓練の題目をその中に明示することは、これまで寧ろ避けられて居ることであるが、今日では少くも作法とか自治とか社會奉仕等についてこれを指導することが大切な事と見られて居る。

(二)　課程選擇上の原則

課程の選擇には三つの原則が考へられる。a社會的要求に一致すること、b幼兒の心身の發達程度に應ずること、c典型的な價値あるものを選ぶこと

a社會的要求に一致すること、前述の如く幼稚園は常に社會生活といふことを考へて來たものであるが、これについては歷史的の推移を顧慮して、眞に社會の要求する所と一致せしめねばならぬ。例へばフレーベルの幼兒學校設立の大眼目は、遊戲によつて社會生活の典型的な活動を幼兒に理解せしむることにあつたのであるが、その家庭生活や社會生活の事情の變遷に伴つて、幼稚園課程の社會的內容も亦

變化するものでなければならぬ。現代の幼稚園もフレーベルの幼兒學校と根本的觀念を共通に持つて居る。併しフレーベル當時の炭燒や鍛冶の生活は既に今の都市生活の主要なる部分ではない。これに代るべき幾多の文化材料を選ばねばならぬ。幼稚園は常に社會の歴史的推移にその課程を一致せしむることを要する。

b　幼兒心身發達の程度に應ずること、

c　典型的な價値あるものを選ぶこと、幼兒の經驗は未だ乏しく、その興味は變化し易い。しかも價値ある材料を選ぶ範圍は甚だ廣いので、これが選擇には多大の注意を要する。尋常一年と聯絡されたる幼稚園にあつては、特にこの問題を重要視すべく、例へば社會生活の方面にあつては、先づ第一に家庭生活を材料とし、その家族生活の理想的要求に從つて、材料が選擇されねばならぬ。只管子供の興味を本位となすこととよりして、教師は往々價値といふ原則を忘れることがある。

第四　課程の心理的組織

課程が定められると共に、最も經濟的に、且最もよく效果を納めるやうに、これを幼兒に受容せしむることが工夫されねばならぬ。即ちこのために課程內容を心理的に組織することが肝要である。

(一)幼兒の學習能力に一致すること、心理的に課程を組織する第一原則として、先づ幼兒の發達と經驗とが考へられる。フレーベルが球や立方體を以て子供にも抽象的な象徵的な觀念を養ひ得るものである

と考へたのは、少くも幼兒の知的能力の發達に不合理なるものである。また所謂新しい教育家の中には屢々はき違ひの理論を立てゝ居る。子供は彼等自ら選ぶ所の問題について最もよく學ぶものであると。殊に自ら計畫せる場合に於て然るものであると考へて居る。併しながら最も堪能なる教師は却つて子供の能力に適ふものを計畫的に暗示し、幼兒が獨力にて遂行し得るやうに努めるものである。幼兒が自ら課題を持つことは、却つて困難に遭遇して教師の助力を仰がねばならぬことになる。

(二)興味を利用すること、幼兒の興味は一般に次ぎの如き事項によつて示される。人及び動物の活動に於ける興味、その他リズム、韻、歌、遊戯、手技、運動、發表、競爭等に於ける興味。

(三)社會生活の方面に於てはその組織上思想のユニットをなすものを考へなければならぬ。例へば家庭生活、賣買のこと、耕作のこと、交通等がそれである。これらのものは社會組織の主要なるものであると共に、また兒童をしてよくその社會を理解せしむるものである。ユニットを主にするのであつて、散在的な經驗は授ける要がないのである。

(四)提示に際しては各の材料に相當する特殊の心理を考に入れる必要がある。

(五)提示の場合には組織的な順序を整頓して置くことが大切である。一つの階梯はすべて次ぎの階梯の基礎となるものである。而して系統的な組織の原理は、幼稚園尋常一年の聯絡上の全體プランの基礎をなすものである。(完)